

共生 生命教育



小学校3～6年

道徳

総合

みんな生きていく 15分

ようこそ!赤ちゃん (2006年放送)

この番組の良さ



家族の大切さを再認識する

赤ちゃんを迎えるための準備に追われる河本家。「みんなで赤ちゃんを迎えたい」という思いから、家族全員で出産に立ち会います。もうすぐ生まれてくる赤ちゃんを心待ちにする兄弟の様子から、家族について深く考え、その大切さを再認識することができます。

自他の「いのち」を考える

「自分が生まれたとき、家族はどんな気持ちだったんだろう?」考えたことがありそうで、意外とないのではないのでしょうか。本番組は、だれもがかけがえのない存在であることに気づき、自他の「いのち」を大切にしていこうとする心情を養う効果的な資料として活用できます。

番組活用のポイント

家族とのつながりやかかわりを意識しながら

番組を視聴する前に、一番身近な存在である「家族」について考えるようにします。家族への感謝の気持ちや嫌だなあと思った経験、兄弟げんかなどについて話し合い、自分と家族とのつながりをより深く意識できるようにします。このことにより、家の手伝いや兄弟の世話をする長男泰佳君の言動や、生まれてくる妹を心待ちにする長女扇空さんの様子に共感し、番組で描かれている家族の様子を自分自身と重ね合わせ、「家族」や「いのち」について深く考えていくことができるようになります。

自他の「いのち」を大切にしようとする心情を高めていく

番組視聴後は、泰佳君の心情を追いながら、「いのち」の尊さについて考えていきます。赤ちゃんが生まれてくることに複雑な気持ちだった泰佳君が、「すごいよね、人間は」と語った理由について話し合い、生まれてくる「いのち」を目の当たりにしたときの心情を深く掘り下げていきます。そして、自分自身も望まれて生まれ、大事に育てられてきたことを感じることができるようになっていくとよいでしょう。ここでは、あらかじめ保護者をお願いしておいた「親からの手紙」を読むようにすると効果的です。

このようにして、だれもがかけがえのない存在であることに気づき、自他の「いのち」を大切にしようとする心情を高めていくとよいでしょう。

総合的な学習の時間、特別活動、生活科などへの広がり

本番組は、道徳の時間に視聴して終わるのではなく、「いのち」や「家族」についてより深く考え、より効果的な学習を行うために、実践的な活動や体験的な活動の場として、総合、特別活動、生活科などへ広げていくことも効果的です。